

プレスリリース（ご案内）

2025 年度第 2 回市民公開講座 ここまで来た老化制御！ 最新研究と私たちの暮らしへの影響を考える

報道関係者 各位

平素は大変お世話になっております。2 月 15 日（日曜日）午後 2 時より開催する市民公開講座「ここまで来た老化制御！最新研究と、私たちの暮らしへの影響を考える」についてご案内申し上げます。

近年、老化に関する研究が急速に進み、「老化細胞」が体内で作られる仕組みや、その検出も可能となってきました。私たちの身体を構成する細胞は、遺伝子が紫外線や化学物質により傷つけられても、多くの場合修復機能が働き元通りとなりますが、その修復ができないまましていると細胞のがん化が起きるリスクが高くなります。そのため、遺伝子修復ができなくなった細胞は、アポトーシス（自ら消滅）するか細胞分裂の機能が強制的に停止させられます。後者の結果生まれた細胞が「老化細胞」で、長期に渡り周囲の組織で慢性炎症を起こし老年病の原因になるとも考えられています。

本講座では、細胞老化の研究で著名な高橋暁子先生（がん研究所細胞老化研究部部長）と科学のイノベーションにおける倫理・制度・社会的課題（ELSI）に詳しい白川展之先生（新潟大学研究統括機構 ELSI センター副センター長）を基調講演に迎え、老化細胞研究の最前線とそこに絡む ELSI/RRI についてお話し頂きます。また、基調講演者 2 名に加え、日経バイオテック編集長の久保田文氏、アステラス製薬アドボカシー部課長の白ヶ澤智生氏、東京科学大学大学院生の宮津美由里氏をパネリストとして迎えたパネル討論「老化制御の期待と不安：科学・医療・社会の可能性」を行います。

皆様のご出席を心よりお待ちしております。

記

日時： 2026 年 2 月 15 日（日） 午後 2 時～午後 4 時半（午後 1 時 45 分開場）

場所： ZOOM ウェビナーによるオンライン開催

参加費： 無料

参加登録： 以下のサイトまたは右の QR コードから事前登録をお願いします。

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_y8C5a_CDQHxXc8kMiEuirQ#/registration



申込締切： 2026 年 2 月 13 日（金） 正午
主催： 川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンター
後援： 川崎市、川崎市看護協会

基調講演①： 老化細胞を標的とした医療開発の可能性

演者： 高橋 暁子 先生
がん研究会 がん研究所 細胞老化研究部 部長
東京大学大学院薬学系研究科 細胞老化生物学教室 教授

講演要旨：

加齢とともに体内に蓄積する老化細胞が、周囲の組織に慢性的な炎症を引き起こし、がんやアルツハイマーや動脈硬化などの加齢性の病態や疾患の要因となっていることが近年報告されています。そのため、超高齢社会の到来を迎えた現在、加齢性疾患の予防と治療を目指した方策として、老化細胞を標的とした医療の開発が世界的に進められています。これまでに、老化細胞に選択的に細胞死を誘導する薬剤や免疫細胞の活性化などのいくつかの方法によって体内の老化細胞を除去する試みがなされ、動物実験では寿命の延伸と加齢に伴う病態の発症時期の遅延につながることが示されています。その一方で、体内の老化細胞の排除は臓器の機能不全による死をもたらすという真逆の報告もあり、その安全性が疑問視され警鐘も鳴らされています。

プロジェクト CHANGE では、健康長寿社会の実現を目指して、老化細胞の生体機能を理解するための基礎研究や、老化細胞を標的とした医療の開発研究を行っていますので、本講演ではその取り組みを紹介します。

基調講演②： 最新医療と社会のルール形成：誰が何を決める？～老化制御を市民と地域の視点で考える

演者： 白川 展之 先生
新潟大学 研究統括機構 ELSI センター 副センター長
同学 教育研究院人文社会科学系経済学系列工学部工学科協創経営プログラム准教授

講演要旨：

老化制御をめぐる研究は近年急速に進展し、医療や健康のあり方を大きく変える可能性が指摘されています。一方で、研究成果がただちに医療として利用できるわけではなく、安全性の確認や有効性の検証、社会的な受容を含めた長い検討のプロセスが必要です。その過程では、「どこまでが科学的に確かな知見なのか」「誰が利用の是非を判断するのか」「不確実な段階でどのように情報を伝えるべきか」といった課題が生じます。

本講演では、老化制御を例に、最新医療が社会に導入されるまでの時間軸と不確実性の背景を整理します。その上で、研究者・企業・行政・市民がそれぞれ果たす役割や合意形成のあり方を考え、地域社会において科学技術とどのように向き合うべきかを議論します。

パネル討論： 老化制御の期待と不安：科学・医療・社会の可能性

要旨：

老化を抑える、あるいは老化細胞を標的とする医療の研究は、健康長寿への期待とともに注目を集めています。一方で、ニュースや SNS で情報に触れる機会が増えるほど、「何を根拠に見ればよいのか」「どんな点に注意して受け止めればよいのか」といった戸惑いも生まれます。

本パネル討論では、新しい医療の情報が社会に出たときに「どう整理され、どう伝わり、どこで誤解が生まれやすいのか」に焦点を当てます。研究者・医療者に加え、メディア（報道の現場）、企業（開発と情報発信の立場）、学生（次世代の率直な疑問）が、それぞれの現場感を持ち寄り、専門的な話題を「自分ごと」として捉えるためのヒントを共有します。

期待を過度にふくらませず、かといって不安だけで終わらせないために、参加者の皆さんの疑問も交えながら、これからの医療情報と向き合うための「見方」と「問いの立て方」を持ち帰れる対話の場を目指します。

パネリスト（50 音順）：

◆久保田 文 氏（ジャーナリスト）

株式会社日経 BP 日経バイオテク 編集長

◆白ケ澤 智生 氏（製薬企業）

アステラス製薬株式会社 アドボカシー部 課長

◆白川 展之 氏（基調講演者）

新潟大学 研究統括機構 ELSI センター 副センター長

◆高橋 暁子 氏（基調講演者）

がん研究会 がん研究所 細胞老化研究部 部長

◆宮津 美由里 氏（大学院生）

東京科学大学 生命理工学院

モデレータ（司会）

◆杉野 智啓 氏（医師）

八丁堀イナサクリニック 理事長

公益財団法人川崎市産業振興財団について

産業の空洞化と需要構造の変化に対処する目的で、川崎市の 100%出捐により昭和 63 年に設立されました。市場開拓、研究開発型企業への脱皮、それを支える技術力の養成、人材の育成、市場ニーズの把握等をより高次を実現するため、川崎市産業振興会館の機能を活用し、地域産業情報の交流促進、研究開発機構の創設による技術の高度化と企業交流、研修会等による創造性豊かな人材の育成、展示事業による販路拡大等の事業を推進し、地域経済の活性化に寄与しています。

<https://www.kawasaki-net.ne.jp/>

ナノ医療イノベーションセンターについて

ナノ医療イノベーションセンター（iCONM）は、キングスカイフロントにおけるライフサイエンス分野の拠点形成の核となる先導的な施設として、川崎市の依頼により、公益財団法人川崎市産業振興財団が、事業者兼提案者として国の施策を活用し、平成 27 年 4 月より運営を開始しました。有機合成・微細加工から前臨床試験までの研究開発を一気通貫で行うことが可能な最先端の設備と実験機器を備え、産学官・医工連携によるオープンイノベーションを推進することを目的に設計された、世界でも類を見ない非常にユニークな研究施設です。

<https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/>

プロジェクト CHANGE について

文部科学省/JST による「令和 4 年度共創の場形成支援プログラム COI-NEXT」(共創分野・本格型)に川崎市産業振興財団(理事長:鈴木 毅、所在地:川崎市幸区、略称:KIIP)が代表機関となり申請し、2022 年 10 月 25 日に採択が決まった COI-NEXT 川崎拠点のことをプロジェクト CHANGE と呼びます。「医工看共創が先導するレジリエント健康長寿社会」をビジョンに掲げ、少子高齢社会にあって負担が増える医療職種の中でも、これまで工学がほとんど介入してこなかった看護領域に特に着目して看護業務の負担軽減を工学の力で行うとともに、老化に抗う身体を造る術について研究開発を行い社会実装します。さらには、市民のケアコンピテンシー(ケアする力)を高め、誰もが簡便に扱えるケア製品やシステムを開発します。

* ホームページを刷新しました。

<https://change.kawasaki-net.ne.jp/>

2026 年 1 月 14 日

ここまで来た老化制御！ 最新研究と、私たちの暮らしへの影響を考える

細胞は紫外線や化学物質により遺伝子が傷つくと、多くの場合修復されますが、それができない場合、がん化してしまうのでアポトーシスや細胞分裂の停止が起こります。細胞分裂の停止により生じたものが老化細胞です。長期にわたり周辺組織に慢性炎症を起こさせ、様々な老年病の原因になるとされます。近年、この老化細胞を検出し除去する研究が世界中で行われています。

本公開講座では、老化制御研究の第一人者として知られる、がん研究会 がん研究所 細胞老化研究部の高橋暁子部長と、今や研究の社会的理解を醸成するうえで不可欠なELSI/RRIについての研究機関である新潟大学研究統括機構ELSIセンターの白川展之・副センター長から基調講演を頂き、その後のパネルディスカッションにて議論を深める予定です。



高橋 暁子 先生



白川 展之 先生

ELSI: 倫理的・制度的・社会的課題

RRI: 責任ある研究とイノベーション

<https://change.kawasaki-net.ne.jp/topics/news/98>

日時： 2026年2月15日（日） 14:00 ～ 16:30

場所： Zoom ウェビナー（オンライン）
事前登録が必要です。右のQRコードを携帯電話等で読み込み登録サイトにお進みください。

基調講演： ① 老化細胞を標的とした医療開発の可能性
がん研究会 がん研究所 細胞老化研究部 部長
東京大学 大学院薬学系研究科 細胞老化生物学教室 教授
高橋 暁子 先生
② 最新医療と社会のルール形成：誰が何を決める？～老化制御を
市民と地域の視点で考える
新潟大学 研究統括機構ELSIセンター 副センター長
白川 展之 先生

パネル討論： 基調講演者2名に加え、以下の方々がパネリストとして登壇します
(五十音順)

- ・ 久保田 文 氏
日経BP 日経バイオテック 編集長
- ・ 白ヶ澤 智生 氏
アステラス製薬 アドボカシー部 課長
- ・ 宮津 美里有 氏
東京科学大学生命理工学院 大学院生

(モデレーター) 杉野 智啓 先生 八丁堀イナサクリニック 理事長



事前登録サイト